

## 博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 橋元 千久佐  
学位 博士(歯学)  
学位記番号 新大院博(歯)第288号  
学位授与の日付 平成26年3月24日  
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当  
博士論文名 地域在住高齢者における食欲および咀嚼不自由感と関連要因に関する研究

論文審査委員 主査 教授 葭原 明 弘  
副査 教授 宮崎 秀 夫  
副査 教授 井上 誠

### 博士論文の要旨

「ものが噛みにくくなった」とする主観的症状(咀嚼不自由感)や「食欲」が他の口腔内症状、社会環境的要素、栄養摂取状況との関連を明らかにすることを目的としている。

新潟市内在住の70歳全員に質問紙法を実施し、調査への参加希望者から無作為に600名を選出した。口腔内診査として、現在歯数を測定した。また、質問紙法により口腔内の自覚症状、およびブレスローの7つの指標を評価した。また、QOL指標として、フェイススケールを、社会的要因として、家族や友人との交流、および配偶者の有無を確認した。栄養摂取状態については、栄養士が半定量的食物摂取頻度調査法により評価した。総エネルギー、糖質、脂質、およびタンパク質の摂取量について計算式により求めた。採血を行い、血清アルブミン、総タンパク、および総コレステロールレベルを測定した。体力指標については、握力、脚伸展力、脚伸展パワー、およびステップングを用いた。分析にあたっては、食欲および咀嚼不自由感とそれぞれの要因との関連を評価した。

食欲のあるものの方が家族や友人との交流に満足しており(オッズ比:4.30,  $p<0.0001$ )、QOLが高く(オッズ比:2.44,  $p=0.005$ )、ブレスローの得点が高く(オッズ比:1.23,  $p=0.037$ )、脚伸展パワーが強かった(オッズ比:1.06,  $p=0.001$ )。また、咀嚼不自由感のない方が、現在歯数は多く(オッズ比:1.06,  $p<0.0001$ )、口腔の自覚症状がなく、家族や友人との交流に満足しており(オッズ比:4.30,  $p=0.049$ )、QOLが高く(オッズ比:1.98,  $p=0.004$ )、脚伸展パワーが強かった(オッズ比:1.06,  $p=0.015$ )。栄養摂取状況との関連については、食欲とBMIおよび血清アルブミンレベルについてのみ統計学的に有意であった。

食欲と口腔内症状との関連はなかったが、社会学的な要因として、家族や友人との交流に満足しているかどうか有意に関連していた。家族や友人関係に何らかの不満を持っている人は食欲がない傾向が明らかになった。さらに、咀嚼不自由感と現在歯数および口腔内の疼痛をはじめとする主観的症状とは大きな関連が認められた。すなわち、現在歯数が少ない方がまた疼痛等があるほうが咀嚼しにくい実体が示された。

結論として、食欲や咀嚼不自由感は、社会的要因やQOLなどの全身的健康観と関連することが示唆された。

### 審査結果の要旨

本調査は、「ものが噛みにくくなった」とする主観的症状(咀嚼不自由感)や「食欲」は他の

口腔内症状，社会環境的要素，栄養摂取状況とどのように関連するのか明らかにすることを目的としている。

新潟市内在住の70歳全員に質問紙調査を実施し，調査への参加希望者から無作為に抽出し，最終的に600人を調査対象とした。口腔内診査として，現在歯数を測定した。また，質問紙により口腔内の自覚症状，食欲，およびブレスローの7条件に基づくHealth Practice Index (HPI)の情報を得た。QOLの中の日常的な健康観の評価指標としてフェイススケールを，社会的要因として家族や友人との交流，および配偶者の有無を確認した。分析にあたっては，食欲および咀嚼不自由感とそれぞれの要因との関連を評価した。

食欲のある者は，ない者に比較して家族や友人との交流に満足しており（オッズ比：4.30， $p<0.0001$ ），QOLが高く（オッズ比：2.44， $p=0.005$ ），HPIの得点が高かった（オッズ比：1.23， $p=0.037$ ）。また，咀嚼不自由感のない者は，ある者に比較して現在歯数は多く（オッズ比：1.06， $p<0.0001$ ），口腔の自覚症状がなく，家族や友人との交流に満足しており（オッズ比：4.30， $p=0.049$ ），QOLが高かった（オッズ比：1.98， $p=0.004$ ）。結論として，食欲や咀嚼不自由感は，現在歯数や口腔の自覚症状に加え，家族や友人との交流などの社会的要因や主観的な日常的健康観と関連することが示唆された。

本調査は，地域在住高齢者の口腔内状況とQOLをはじめとする関連要因との関連性について詳細な分析がなされている。得られた結果は，高齢期における今後の地域歯科保健に大きく寄与するものと考えられ，その意味は大きく学位論文としての価値を認める。